

寺を旅立して故國越中の嶋村へ到着せられ、吾が親族舊臣共に逢ひ、吾舎兄既に家を通れて武州にあり。今此桃井の家運既に盡き、繼續すべき兒孫もなければ、今は是までなり。我が祖先考妣の爲に菩提院を造るべしとて、慈父舎兄の住み給ひし館を改め造り寺院となし、本成寺とぞ名付けられる。此本成寺は、後に第三祖日樹聖人の代に寺號を改めて本紹寺となし、其後第五世日持聖人初て山號を附し、寺號をも更めて鳳榮山本光寺といへり。さて此年は聖人の慈父桃井尚儀の卒去ありしより、三十三年の忌に當れば、一日婦負郡布市村なる先考の廟所に詣られ、香華讀經の供養をなし、先考に妙蓮尊儀、また先妣には圓喻尊儀の法號を諡らせられたり。斯くて本成寺へ歸り給へり。此時中村元成齡既に七十歳なるが、深く塵網を厭ひ、出家得度して、先君の庭草を除きて精舎を衞らん事を乞ひ申すに、一座の人々皆その忠心を感賞し、互に流涕したりけり。元成の末裔今も尚淺井郷にありて家名盛なりといふ。さて右射水郡淺井郷嶋村なる本成寺は、永正年間に上杉顯定と長尾爲景との戰爭の時に、兵火に罹り悉く燒失し、其より後天文十二

年癸卯の歲、草庵を結び一字を建立し、更に寺號を本紹寺となしたり。天正年中前田家の所領と成りて、同國新川郡富山の地へ移し造立して本紹寺といへり。其後慶長六年射水郡高岡の地へ移轉し、古定塚町に於て千五百餘歩の敷地を賜はり建築す。此時鳳榮山本光寺と改稱すと云々。平次按ずるに、高岡へ移轉せしは慶長十六年の誤りならんか。是高岡本光寺とて、今も高岡にあり。是より金澤卯辰本光寺出でたり。江沼郡大聖寺町の本光寺も、高岡本光寺の別れ也。さて寶曆十四年舊蹟取調書に、射水郡嶋村領に寺屋敷跡有之。此屋敷は日蓮宗中古祖師日隆上人誕生之地に而、應永二十三年に日隆上人此地に本光寺と云ふ寺を建立有之。後高岡へ引越す。是今の本光寺也。又嶋村の寺跡に、唯今は番神堂のみ有之。と記載す。嶋村なる寺跡は彼の本成寺の遺跡にて、本成寺を後に本紹寺と改稱し、高岡へ移轉後本光寺と改稱せり。三州志來因概覽に、金澤卯辰本光寺の開祖日隆は、桃井直常の族にて、其の産地は射水郡淺井嶋村なり。終りに淺井嶋村にて遷化、其墓即ち此地にありと、昔日北華と云ふ雜書に見ゆ。本光寺由來帳には、攝

州本興寺にて寂すとあり。と載せたり。又或は云ふ。今淺井嶋村番神堂の境内に、日隆上人の誕生地といふあり。明治維新の初め、右番神堂を一寺となし、寺號を誕生寺と稱すといへり。

○精進山妙正寺

法華宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當寺開基、永仁二年日像上人關東より上洛ありて、能登國瀧谷に至り、夫より加賀國石川郡大野村へ到着、止宿之家にて法談議有之之處、當村之者共甚だ宗義に歸依し、信仰の餘り改宗の者數多有之故、日像上人滞在被致、彌法談議有之之處、所之者共其俗家を寺院と致し度旨懇望す。依之則寺と成し、妙正寺と寺號を付與し、補任之曼茶羅等を殘し置、上洛被致。依之永仁四年尙玄阿闍梨開山与成り寺建立、以來數代大野村に有之之處、天正年中に寺燒失。此時曼茶羅等悉く火災に罹り燒失す。夫より二十年餘寺中絶之處、元和元年に瀧谷妙成寺十五世日條上人、卯辰山地子地に於て再興有之、再興之次第を曼茶羅に記し被置。とあり。三箇屋版六用集には、廣布山妙正寺。と記さる。按ずるに、右の六用集は正保

五年の梓行本なり。此の頃は山號を廣布山と號せしなるべし。

○日向山妙國寺

法華宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當寺開基、慶長十九年越中富山妙國寺住持日全建立。瑞龍公薨逝以後、高岡引越之檀那佐々藤右衛門・矢嶋平左衛門・金子萬右衛門・銀屋久内其外旦那共、金澤に於て寺取立度旨申立、日全は法華經一萬部讀誦仕る法師成故、右檀那共崇敬致し、日全を請待し、當寺を取立て開山とす。とあり。又別の來歴書には、當寺開祖信命院日全、初め富山に於て妙國寺を創立す。其後高岡にて又妙國寺を建立し、慶長十九年金澤にて又妙國寺を建立す。故に三妙國寺と稱し、山號は三箇寺共に日向山といふとあり。

○日全並金子萬右衛門傳

妙國寺過去帳に、開山信命院日全、寛永元年正月廿一日法華經一萬部讀誦、富山神通川に而水死。とありて、入水して往生せし人なりといへり。又傳説に曰く、富山反魂丹の元祖淨閑翁は、右日全の召仕ひたる從僕なり。反魂丹の藥